

山形美術館 平成 26 年度事業の概要

1. 公益事業

(1)企画展事業

山形県民はじめ広く美術愛好者に国内外の優れた美術作品を鑑賞する機会を提供する事業であり、地域に根ざす美術館として果たすべき役割の中核でもある。

26 年度は当館の開館 50 周年を記念し、茨城県陶芸美術館・泉屋博古館分館・兵庫陶芸美術館との共同企画「没後 50 年 板谷波山展」、山形新聞・山形放送 8 大事業「細川家の名宝と細川護熙の風雅」、「山形の美術—山形美術館の歩みとともに」、「ヨーロッパ絵画展—バロックから近代へ」の 4 企画展を実施する。併せて当館の 50 年の活動を記した記念誌を刊行する。

また、山形県内で創作活動を行っている個人に作品発表の場を提供するとともに優秀作品を審査のうえ表彰する公募展として「山形県総合美術展」、「山形県総合書道展」、「山形県写真展」の 3 県展を開催する。

(2)収蔵品展事業

山形美術館では、フランス近代美術、日本の美術、山形県関係美術を 3 本柱に美術作品および関連資料の収集と調査研究を進めており、現在約 2,000 点の収蔵品を有している。その一部を「長谷川コレクション記念室」、「新海竹太郎竹彫刻室」などで常設展示しているが、26 年度は、春に近年新たに加わった作品を紹介する「新収蔵品展」、冬にはバロックから近代以前を紹介する特別展と併せて「吉野石膏コレクションのすべて」を開催し、近代以降の美術の流れをたどる。またホームページを刷新し、優れた収蔵作品を発信していく。

(3)展示施設貸与事業

美術に関する創作活動を行っている個人および団体に対し、当館の展示室と展示用備品を貸与する事業である。26 年度には個展やグループ展、全国公募展の山形巡回展など 20 の展覧会を予定している。

2. 収益事業

来館者に美術館での豊かな時間を過ごしてもらえるよう、喫茶室を設けて飲み物と軽食を提供している。26 年度に開催される展覧会の内容やその季節にふさわしいメニューを工夫していく。美術関係の書籍やミュージアムグッズを販売するコーナーでは、来館者のニーズに応えられるよう品目の充実を図る。

3. 法人運営および施設管理

1964 年 8 月に開館した当館は、本年で 50 年を迎え、これを記念する式典を夏に開催する。館の設立理念を踏まえた美術館活動を行なうため、継続して設備、内装、備品などの点検と改修計画を実施する。

平成26年度 山形美術館事業計画書
-企画展-

事 業 の 名 称	事 業 の 内 容	期 間		備 考
		入 場 料		
開館50周年記念 没後50年 板谷波山展	<p>明治5(1872)年、茨城県真壁郡下館町(現・筑西市)に生まれた板谷波山(本名、嘉七)は、開校間もない東京美術学校で木彫を学んだ。教師として赴任した石川県工業学校で本格的に陶芸の研究を始め、最新の釉薬技術や西洋のアール・ヌーヴォー図案から多くを学び取った。明治36(1903)年、陶芸家として独立することを決心し上京。東京田端に築窯し、郷里の筑波山にちなんで「波山」と号した。「芸術としてのやきもの」を目指した波山は、卓越した彫刻技術を活かした薄肉彫と、釉下彩による豊かな表現によって「葆光彩磁」などの格調高い独自の作風を確立。昭和9年に帝室技芸員、同28年には陶芸家として初の文化勲章を受章するなど、近代陶芸史に大きな足跡を残した。</p> <p>本展は板谷波山の没後50年を記念し、新出の作品・資料など近年の研究成果を踏まえ、代表作約150点と資料によつて、波山芸術の全貌を紹介する。</p>	4月3日(木) - 5月11日(日)		
開館50周年記念 細川家の名宝と 細川護熙の風雅	<p>1998年に政界から退いた細川護熙氏は陶芸の道を志し、茶入、茶碗、花入、水指、香合などの茶器を中心とした制作に取り組んできている。伝統的な茶の美意識に独自の工夫と創意を重ねた作品の数々は、やきものの愛好家をはじめ陶磁研究者からも注目され、高く評価されている。</p> <p>晴耕雨読の閑居を実践するなか、細川氏は風雅の心に突き動かされるかのように、陶芸を起点として漆芸、書、水墨画から油彩画まで表現の幅を広げており、今では単なる陶芸家の域を超えて、詩書画三絶を理想とした中国の士大夫、あるいは日本の文人や数寄者を彷彿とさせるに相応しい創作ぶりである。その一方、2011年2月には、山形市にある東北芸術工科大学の初代学園長に就任し、日本文化の次代を担う後継者の育成と東北からの新しい文化発信に情熱を注いでいる。</p> <p>本展は、こうした細川氏と山形との縁の結びつきを機に、幅広い“護熙芸術”的一端を山形県民はもとより東北地方の美術愛好家の人々に紹介するとともに、細川氏の精神を培った細川家700年の歴史を伝える美術品、文化財などを併せて展示し、細川氏の芸術創造の秘密に迫ろうとするものである。</p>	7月25日(金) - 8月24日(日)		
開館50周年記念 山形の美術 —山形美術館の歩みとともに	<p>1964(昭和39)年8月20日に開館した山形美術館は、今年で50周年を迎えた。国内外の優れた美術の紹介、県民の美術愛好家による公募展や団体展などの開催に加え、「日本および東洋の美術」「山形関係の美術」「フランス近代美術」の3つの収集方針に基づき、美術作品の収集活動を行なってきた。なかでも重要文化財や県指定有形文化財を含む長谷川コレクションの寄贈や県出身の作家・遺族からの作品寄贈、また収集方針に沿った作品の寄託などにより、山形の文化や美術に関する作品を充実することが図られてきた。</p> <p>本展は、山形美術館の50年の歩みを振り返るとともに、当館の収蔵品から優品を厳選し、山形の自然や風土を反映させた絵画、彫刻、工芸など、山形にゆかりのある作家による個性溢れる多彩な表現を紹介する。</p>	10月17日(金) - 11月16日(日)		

事 業 の 名 称	事 業 の 内 容	期 間	備 考
		入 場 料	
開館 50周年記念 ヨーロッパ絵画展—パロックから近代へ	<p>パロックとは「歪んだ真珠」を意味するポルトガル語に由来するとされている。15-16世紀にイタリアに花開いたルネサンス美術が、均整と調和のとれた古典的美を重んじたのに対し、パロック美術は劇的な構図と光と闇のコントラストなどを通して人間の情感を豊かに表現し、17世紀のヨーロッパ各国で多彩な展開をとげた。</p> <p>本展は長野市在住の美術収集家・長坂剛氏が長年にわたって収集した「長坂コレクション」より、17世紀のパロック美術と19世紀の近代絵画を中心に、58点の油彩画を紹介する。聖家族のはのぼのとした情愛を描いた宗教画、水辺の情景をみずみずしい感性で捉えた風景画、何気ない日常生活の一コマを明るい色彩で生き生きと描きだした風俗画などの優品が並ぶ。当時の市民が日々の暮らしの中で愛し、彼らの精神を豊かに育ってきた西洋絵画を通して、ヨーロッパ文化の芳醇な醍醐味を味わう機会とする。</p>	12月13日(土) — 1月25日(日)	一般 1,000円 高大生 800円 小中生 400円 ※土曜日は中学生以下無料 「吉野石膏コレクションのすべて」共通料金

- 3県展 -

事 業 の 名 称	事 業 の 内 容	期 間	備 考
		入 場 料	
第69回 山形県総合美術展	山形県の美術振興と美術家のレベル向上を目指して毎年開催している県内最大の公募展。日本画、洋画、彫刻、工芸の4部門で作品を一般公募し、わが国を代表する作家を各部門の審査員として招き、入選作を決定し、優秀作を表彰する。これらの作品に審査員特別出品、委嘱、無鑑査などの作品をあわせ500余点を展示公開する予定。併せて第55回こども県展を開催し、幼稚園から中学生までの児童生徒の絵を展示する。	8月30日(土) — 9月15日(月)	一般 600円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜日は中学生以下無料
第39回 山形県総合書道展	山形県内および出身者の書家、書道愛好家から広く作品を公募し、中央でも活躍している県書壇の重鎮による合同審査を行い、優秀作を表彰し、また入選作を選定する。県書道界の現時点の力量と将来への展望を示す展覧会となっている。	9月20日(土) — 9月28日(日)	一般 600円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜日は中学生以下無料
第49回 山形県写真展	山形県内の写真愛好家に作品発表の場を提供するとともに、相互の交流と写真技術のレベルアップを図る公募展。県内各地から広く公募された作品を、日本を代表する著名な写真家に審査を依頼して入選を決めたうえ、その中から入賞、準入賞、努力賞を選んで表彰する。近年、公民館や生涯教育のなかで写真教室が人気を集めるなど、カメラを手にする人が増えており、本年も2500点を超す応募作品が予想される。	2月26日(木) — 3月22日(日)	一般 600円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜日は中学生以下無料

- 収蔵品によるテーマ展 -

事 業 の 名 称	事 業 の 内 容	期 間	備 考
		入 場 料	
吉野石膏コレクションのすべて	吉野石膏株式会社と吉野石膏美術振興財団より当館に寄託されている絵画コレクションは、印象派を中心に、ポスト印象派、エコール・ド・パリまで、きら星のごとく優品が揃っている。来館者に親しまれているコレクションを全点展示し、フランス近代絵画の流れをたどるものである。	12月13日(土) - 1月25日(日)	
		一般 1,000円 高大生 800円 小中生 400円 ※土曜日は中学生以下無料 「ヨーロッパ絵画展」と共 通料金	

- 収蔵品展 -

事 業 の 名 称	事 業 の 内 容	期 間	備 考
		入 場 料	
収 蔵 品 展	新収蔵品展 5月14日-5月25日 常設展 「巨匠の広場」/「吉野石膏コレクション-珠玉のフランス近代絵画」/「新海竹太郎・竹蔵彫刻展示室」/「長谷川コレクション記念展示室」/「彫刻の小部屋」	年間通し 一般 500円 高大生 300円 小中生 100円 収蔵品展によっては料金が 変わることもあります。 ※土曜日は中学生以下無料	

平成26年度 展示施設貸与事業

日展山形会	5月21日(水)－6月1日(日)
春光会	5月28日(水)－6月1日(日)
創琢書道展	6月5日(水)－6月8日(日)
☆北展60回展(会員会友展)	6月11日(水)－6月15日(日)
霄友会書道展	6月19日(木)－6月22日(日)
☆山形県民ふれあい書道展	6月28日(土)－7月6日(日)
櫻墨書院展	7月9日(水)－7月13日(日)
☆示現会山形展	7月16日(水)－7月20日(日)
☆毎日書道展東北山形展	10月1日(水)－10月5日(日)
☆読壳書法展東北展	10月8日(水)－10月13日(月・祝)
MOA美術館山形県児童作品展	10月25日(土)－10月26日(日)
翔龍会書道展	11月1日(土)－11月3日(月・祝)
☆北展(公募展)	11月19日(水)－11月23日(日)
山形市芸文協総合展覧会	11月19日(水)－11月23日(日)
墨華会書道展	11月27日(木)－11月30日(日)
東邦書道会全国展	12月4日(木)－12月7日(日)
山形大学造形芸術コース卒業修了制作展	2月4日(水)－2月8日(日)
誠筆書展	2月5日(木)－2月8日(日)
山形デザイン専門学校卒業進級制作展	2月18日(水)－2月22日(日)
山形県健康福祉祭美術展	2月19日(木)－2月22日(日)

☆の展覧会は有料。